

## 第 4 回 山鳥坂ダム環境検討委員会の 意見、質問と補足事項

国土交通省 四国地方整備局  
山鳥坂ダム工事事務所



第4回 山鳥坂ダム環境検討委員会（平成18年3月9日開催）の意見、質問と補足事項

No.	分類	指摘事項	第4回委員会における回答の要旨	補足事項
1	(環境) 生物	県の審査会ではキツネ以外にもカワネズミ、モモンガ、その他の種についてもいろいろ指摘があるが、それらについてはどう考えているか。	審査会で議論頂いた内容は、ほとんどが知事意見として出されており、最終的には準備書の見解として示すが、今後、準備書について議論していく過程で順次示していきたいと考えている。	-
2	(環境) 生物	県の審査会のキツネの意見のところ外来種の問題が出ているが、準備書を取りまとめるまでに外来種の扱いについて決めておく必要があると考える。	-	外来種については、生態系の指標となる注目種として選定しないことを基準に考えていく。また、レッドデータブック等で選定されているものではない限り重要な種として取り扱わない。
3	(環境) 生物	県知事意見のキツネのところでも出てくるが「定着」の定義を明確にしておく必要があると考えられる。クマタカについては事務局の考え方で良いと思うが、全ての動物については同じ考えで良いか検討しておく必要がある。	種によって定着の考え方は違うと認識している。クマタカについては、多くの調査事例から営巣、繁殖していることが大きな目安と考えている。他の種については注目種として位置づけるかどうかを検討する際に検討していく。	-
4	(環境) 生物	外来種の問題は難しい問題であるが、環境省が一応基準をだしているの、それが目安になると考えられる。	-	-
5	(環境) 生物	上位性の注目種について考えると、キツネは得られたデータが少ない。なわばり性が強い。餌も偏っている等の問題があると考えられる。テンは動物質、植物質の両方を食べることで、データもあることから、上位性の注目種として適しているのではないかと考えている。ただ山鳥坂ダムで得られているデータでは何とか一般的な評価ができる位ではないかと考える。ただしそれ以上の評価になると知見が少なく難しいのではないかと考えられる。	-	テンを上位性の注目種として位置づけられるか検討した結果、クマタカ等と比べると、知見が確立されていないため、上位性の注目種として位置づけるには時期尚早と判断している。
6	(環境) その他	植物の調査結果については大きな問題はないと考えられるが、方法書に対する知事意見、住民意見に対する検討委員会は次回になるのか。	次回以降の委員会で具体的な予測評価結果を示す中でご議論いただきたいと考えている。今回は次回以降、ご議論いただくために情報を示させていただいたとご理解いただきたい。	第5回委員会において、知事意見、住民意見に対する事業者の考え方を示して意見を頂きたいと考えている。
7	(環境) 生物	平成16、17年に新たに確認された重要な種に対する対応についてはどのように考えているのか。	平成3年から長年にわたって十分調査を実施していると考えており、今回示した調査結果をベースに準備書を作成していきたいと考えているが、部分的にもう少しフォローしておく必要があるれば指導・助言をいただきたいと考えている。	-

No.	分類	指摘事項	第4回委員会における回答の要旨	補足事項
8	(環境)生物	調査結果の中に「土壌性甲虫類」とあるが、アリもかなり含まれているので「土壌性昆虫類」としたほうがよい。	-	-
9	(環境)生物	重要な種のおもゴミズギワカメムシは面河で初めて見つかったためこういう名前がついたものであるが、溪流の岩の上という特殊な環境に生息する。生息環境が分かったことによってあちこちで見つかり、それほど考慮しなくてもいいのではと考えている。 むしろオオクワガタは里山の典型的な種であり、低地ではほぼ絶滅に近い状態の種である。当地域で確認されたことはすこし驚いている。本種については攪乱のインパクトが大きいので位置情報の流出しないよう留意して欲しい。	-	種の保存の観点から乱獲、攪乱が懸念されるものについては、環境検討委員会の指導を得ながら可能な範囲で公表していく。
10	(環境)生物	上位性注目種の選定に係る種の現地調査結果の部分にあげられている種は、上位性の注目種として検討するためなのか。	オオタカ、サシバ、ヤマセミは平成15年度までの調査結果に基づき検討したものである。平成16、17年度の結果を考慮する必要があると考えており示している。 クマタカとテンについては、これまで委員会の中で議論いただいているものなので、詳細な結果を示して何が上位性の注目種として適切かを判断頂きたいと考えている。	テンを上位性の注目種として位置づけられるか検討した結果、クマタカ等と比べると、知見が確立されていないため、上位性の注目種として位置づけるには時期尚早と判断している。 クマタカについては、最新の確認状況を示して意見を頂きたいと考えている。
11	(環境)生物	ヤイロチョウについては、社会的関心の高い種ということであげられているが、これは準備書でこの項目としてかなりのページを割いて記載していくことになるのか。	ヤイロチョウについては、一部住民の方から上位性に位置づけて欲しいとの意見をいただいているが上位性には位置づけられないと判断している。ヤイロチョウをのせているのは新聞等で取り上げられており、社会的関心が高いと考えられることから、今回、このような形でお示ししているが、準備書ではこのような項目で記載はしないが全体のバランスを見ながら検討していく。	-
12	(環境)生物	クマタカとヤイロチョウについては非常に詳細な調査をしている。重要な種の1つとして取り扱うと何か埋もれてしまうのではないかと懸念を一般の人たちは持っていると思われる。この2種については、準備書の中で特に抜き出して扱って欲しい。	他の重要な種と比べて特別扱いすることは考えていないが、詳細な調査結果があるのでそれは活用していく。 これまでクマタカについては戻ってきたら適切な対応をするといってきたので、その方針に変更がないことをこの資料で示させて頂いている。今回の結果を踏まえて委員会でクマタカの扱いについては整理して欲しいと考えている。なお、新たな知見が得られた場合はそれを活用して判断していきたい。	-

No.	分類	指摘事項	第4回委員会における回答の要旨	補足事項
13	(環境) 生物	ミゾゴイという重要な種についてもヤイロチョウと同じくらい減少している。しかも日本固有、繁殖に関しても日本固有ということで非常に関心の高い種であるので社会的関心の高い種として、ミゾゴイも加えていただきたい。	本資料は準備書の構成を示したものではない。準備書ではあくまで重要な種の一つとしてレベルを併せて取り扱うことを考えている。ただ、事業者としてもミゾゴイの重要性については認識しているので、その点に留意しながら予測評価を実施していく。	-
14	(環境) 生物	上位性の注目種として、鳥類だけでは飛んでいっただけいなくなるので心もとないと考えている。その意味で陸上の動物であるテンを位置づけられればよいと考えられる。	-	テンを上位性の注目種として位置づけられるか検討した結果、クマタカ等と比べると、知見が確立されていないため、上位性の注目種として位置づけるには時期尚早と判断している。
15	(環境) 生物	昆虫類については、標本して残すということがうまくいくので、採集したものについては標本として保存するようなことも考えて欲しい。	-	採集した昆虫類については、重要性に応じ標本として残すことを行っていく。ただし、動植物保護の観点から必要最少限の範囲と考えている。
16	(環境) 生物	生物の専門ではないが、上位性として、1つがいとか2つがいしかいないものを評価の中心において影響評価できるのかということについて感じている。上位性のものだけが議論になっているが、個体数が多いもの、広く分布しているものでも評価すべきではないかと感じられる。	生態系については複雑なものであり、その構成要素の全てを取り扱うことはできないため、いろいろと仮定をおいてやっている。上位性は食物連鎖の上位に位置する種であり、どうしても個体数が少ないものになってしまうということは理解頂きたい。また広く分布しているものについては典型性の中で取り扱っていく。	-
17	(環境) 生物	上位性は下位の生物の指標と理解している。オオタカ、サシバの他にテンを入れることが重要ではないかと考える。ダムで湛水した場合、哺乳類は生息環境に直接影響が及ぶものと考えられるので適しているのではないかと感じる。	-	テンを上位性の注目種として位置づけられるか検討した結果、クマタカ等と比べると、知見が確立されていないため、上位性の注目種として位置づけるには時期尚早と判断している。
18	(環境) 生物	クマタカを上位性の注目種とするかどうかについては、この場で議論するのか。	今回は予測を行うためのベースとなる調査結果について示している。次回以降に議論して頂きたいと考えている。	クマタカについては、最新の確認状況を示して意見を頂きたいと考えている。

「重要な種」と「上位性の注目種」について

項目	動物「重要な種」	生態系「上位性の注目種」
目的	希少性の観点から「重要な種」に対する影響を評価	「上位性の注目種」に対する影響評価により、下位の生物を含む生態系全体への影響を評価
調査対象	下記に該当する種 ・種の保存法や文化財保護法の保護対象種 ・環境省や県のレッドデータブック記載種 等 【クマタカは種の保存法等に該当】	想定された食物連鎖の上位に位置する種 【クマタカは一般的に生態系の上位に位置する種】
予測・評価対象	調査範囲で確認された調査対象種（※）	・事業実施区域及びその周辺への依存性の高い種 等（※） ・調査すべき情報が得やすい種
備考	・事業実施区域やその周辺への依存性が高くなくとも、調査範囲で確認されれば評価の対象	・「上位性の注目種」が現在と同じ状態で生息し続けるかどうかを見ることが、その地域の生態系が将来にわたって現在と同じ状態を保てるかを予測するため、「上位性の注目種」は、現在その地域を主要な生息環境として利用していることが必要 ・予測・評価の手法がある程度確立していることが必要 *「事業実施区域及びその周辺」とは事業実施区域および事業実施区域から概ね500mの範囲 *「依存性の高い種」とは、営巣又は繁殖が確認されているなど、事業実施区域及びその周辺に定着していること

(※)「ダム事業における環境影響評価の考え方」(H12. 3 河川事業環境影響評価検討委員会編集)より

「重要な種」と「上位性の注目種」について【クマタカ】

項目	動物「重要な種」	生態系「上位性の注目種」
調査	<p>範囲</p> <p>事業実施区域から3km程度の範囲を地形条件(尾根等)を考慮して設定</p> <p>方法</p> <p>定点観察 (出現状況、個体識別、求愛行動、狩りに関する行動、営巣活動、幼鳥の行動等)</p>	<p>左に同じ</p> <p>左に同じ</p>
予測・評価	<p>対象</p> <p>調査範囲で確認された全ての個体 (つがい及びそれ以外(フーター等)の確認個体)</p> <p>方法</p> <p>ダム事業による、 ①つがいの内部構造(コアエリア・繁殖テリトリー・幼鳥の行動範囲)への影響の程度 ②つがい以外の個体の生息環境の改変の程度 を予測・評価</p>	<p>定着が確認されている(つがいである)個体</p> <p>ダム事業による、 ①つがいの内部構造(コアエリア・繁殖テリトリー・幼鳥の行動範囲)への影響の程度 を予測・評価</p>
山鳥坂ダムにおけるクマタカの取り扱い	<p>環境省レッドデータブック等に記載されており、調査範囲で確認されたので「重要な種」として予測・評価の対象とする</p>	<p>H9～H18の調査結果に基づき、現在は事業実施区域及びその周辺にクマタカのコアエリア(主要な行動圏)は存在せず、定着していないと判断</p> <p>「上位性の注目種」に位置付けられたとしても、事業実施区域及びその周辺に、クマタカのコアエリアが存在せず、ダム事業による生態系の影響評価につながらないため、「上位性の注目種」の対象としない</p>

